

2010年11月29日

株式会社 マルイ物産
代表取締役 池見 明 様

グラクトール中のヒ素について

キューピー株式会社
ファインケミカル本部

拝啓

貴社ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、スポイダン（現グラクトール）中のヒ素につきましては、2004年8月に報告させていただいておりますが、原料の活性メカブパウダーが中国産から韓国産に切り替わり、また商品名がグラクトールに変更されたことから、再度分析を行いましたので、下記のとおり報告いたします。宜しくご査収の程お願い申し上げます。

敬具

記

○ グラクトール中のヒ素分析結果

- ・ ロット番号：10002
- ・ 試験検査実施場所：財団法人日本食品分析センター
- ・ 分析結果（食品分析センター報告書 第10098330001-01号、2010年11月22日）

分析試験項目	結果	方法	備考
ヒ素 (As ₂ O ₃ として)	110ppm	原子吸光光度法	Asとして83ppm (分子量換算)
有機態ヒ素	78ppm	原子吸光光度法	Asとして
無機態ヒ素	2ppm	原子吸光光度法	Asとして

※ 有機態ヒ素及び無機態ヒ素の合計値80ppmとヒ素の分析値83ppmとに3ppmの差ありますが、これは分析センターによると、ヒ素の分析方法と有機態及び無機態ヒ素の分析方法（抽出方法）の違いに起因する測定誤差であるということです。

○ 弊社見解

前回の報告値（有機態ヒ素75ppm、無機態ヒ素4ppm）と大きな差は見られません。

グラクトール中のヒ素は、ほとんどが毒性の低い有機態ヒ素であります。有機ヒ素化合物は、たとえ摂食されても比較的短時間で体外に排出され、蓄積されることはないことが報告されております。

無機態ヒ素につきましても、WHOが1988年に定めたPTWI（暫定的耐容週間摂取量）は15μg/kg体重/週であり、体重50kgの人の場合、107μg/人/日に相当します。グラクトール中の無機態ヒ素は2ppm（=2mg/kg）であり、毎日53.5g以上のグラクトールを継続的に摂取しない限り、ヒ素のPTWIを超えることはありません。

また、通常の摂食の範囲では、体内で無機ヒ素を有機ヒ素化合物に代謝する機構があると考えられております。

グラクトールの1日当たりの摂取量はおよそ0.5g~1gであり、グラクトールを継続的に摂取しても、安全性に問題はないと考えます。

以上